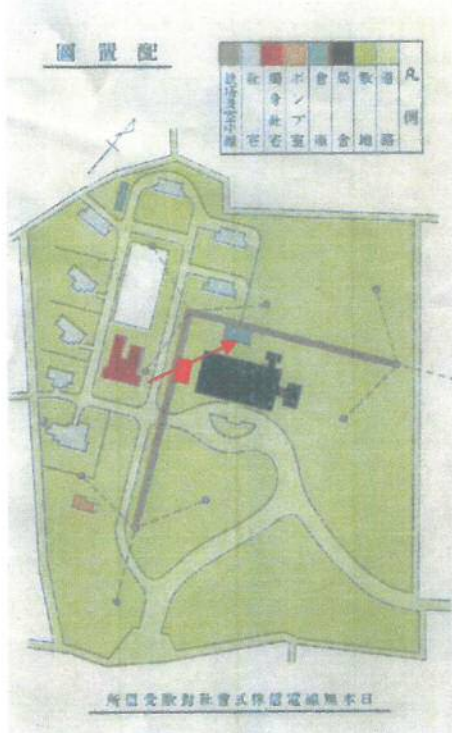


あとがき

海蔵(四日市)受信所のことについては、郷土史の「海蔵小誌」に確かに記されているのですが、一般的な紹介に終わっています。私は、今回の調査をして初めてその文献の存在を知ったのですが、かつて四日市市在住の相山満氏が、「四日市市史研究」第6号(1993)で相当詳しく研究なされた結果を発表されていますのでお読みになられた方も多数お見えになると思います。もちろん相山満氏の研究には遠く及ばないのは承知の上ですが、少しでも根拠づけのある確りとした資料を収集して受信所の歴史をまとめてみたいと思い挑戦することにしました。

2年余りの期間をかけて対欧無線電信海蔵(四日市)受信所の長波通信時代について調べましたが、世の中には今や幻のかつての海蔵(四日市)無線受信所について並々ならぬ関心をお持ちの方々が各地に沢山お見えになることに感激するとともに、探求心の深さ、執念というかバイタリティー溢れる皆さんの生き方に刺激されてついつい老体を忘れて研究に取り組んでしまい、あっという間に時間が流れていきました。

私は、もともと当地の生まれではありませんが、現在住んでいるところは、1968年(昭和43年)に受信所跡地を分譲で購入し我家を建てた時から当地にご縁ができました。今回の調査で調べた結果、初めて気が付いたのですが、現在、我家が建っている位置は、受信所局舎が建っていた位置のすぐ傍だったのです。偶然にも我家の建築中の写真に撤去する前の受信所の倉庫が写り込んでいたのです。インターネット上で、受信所があった場所はどこだろうというやりとりがかなり見られますので、これが証拠だという何かが見つかれば解決できるのにと思っていたところ、そうだと確かな写真があったはずだと気づき探したところ見つかったのです。



昭和43年に建築中の中間確認検査用写真

柱の間から見える白い建築物が、受信所の倉庫だった建物。海蔵受信所の建物は、依佐美送信所と同じ設計者加護谷祐太郎氏によるもので、したがって形状は依佐美送信所にあつたものと同じです。

所在地は、四日市市大字西阿倉川字北山1512-15です。この分譲地は、社宅が全部取り壊されて、新たに残っていた敷地を「ウェリスパーク阿倉川」として開発されました。

